

お正月 サタタ

迎春

2014



vol.132

1



表紙紹介

今年の午年（うまどし）にちなみ、かわいい馬をピックアップし表紙と裏表紙に飾りました。

馬は、東相内の澤合昭治さん所有のミニチュアホースのレモンちゃん（2歳）と、手綱を持っている児童は、相内のジュニア4Hクラブの宮田瑛介くん（6歳）です。裏表紙はお母さんの千尽姫（6歳）とレモンちゃんの親子です。

“天高く、馬肥ゆる秋” 実り多き秋でありますように。



JAきたみらい概要

(平成25年12月16日現在)

| | |
|-----------|------------|
| ・組合員数(正) | 1,770人 |
| ・組合員数(准) | 5,701人 |
| ・組合員戸数(正) | 1,161戸 |
| ・貯金 | 104,031百万円 |
| ・貸出金 | 18,244百万円 |
| ・出資金 | 5,112百万円 |

もくじ CONTENTS

| | |
|------------------------------------|----|
| ○JAからのお知らせ | 18 |
| ○青年女性ネットワーク | 14 |
| ○JAきたみらい ホットライン東西南北 | 10 |
| 新春特集 「私の夢と希望」 | 6 |
| ○年頭のご挨拶 「足元を見つめ直し 強い信念と実行力で」 | 4 |
| ○季節の薫り | 2 |

初日の出

2014年が今日から始まる。
 燦然(さんぜん)と輝く初日の出、北海道糖業(株)北見製糖所の工場から立ち上る水蒸気と常呂川より立ち上る川霧が、寒気と一緒に帯状に流れていく。
 昨年を振り返ると、さまざまなことが思い返される。春の降雪、盛夏の干ばつは農畜産物の生産に大きく影響した。
 農協合併10周年を迎えたJAきたみらいでは多くの行事を盛大に行い、生産者はもとより、多くの地元住民と共に祝うことができた。
 今年こそは皆さんと共に、力強く輝く、朝日のような笑顔で迎えられる豊穡を願う。良い年でありますよう、祈年。

【写真は午前7時6分 気温-12℃ 北見市北上の北見バイパス付近より撮影】



足元を見つめ直し 強い信念と実行力で



きたみらい農業協同組合

代表理事組合長

西川 孝 範

降雪や干ばつで 生育不良に見舞われ

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様をはじめ、ご家族の皆様には、健やかに平成26年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆様にはJAきたみらい事業運営に対し日頃より深いご理解とご協力を賜り、厚く感謝と御礼を申し上げます。
昨年は、季節はずれの降雪により

植え付け作業が遅れが生じ、また干ばつによる生育不順にも見舞われました。そのような中、困難な状況を克服しながら、一年間の営農にご尽力されたことに対して、改めて敬意を表する次第であります。

また、平成25年は、国内外ともにまさに激動の年でありました。TPP交渉については、3月の交渉参加表明以降、交渉参加反対のもとで、関係機関と連携をはかりながら、各種運動を展開致しました。かねてよ

り懸念していたとおり、情報開示が極めて不十分な中、秘密裏に交渉が進行し、予断を許さない不透明な状況が続いておりますが、政府・与党

への強力な働きかけと併せ、国民世論形成に向け粘り強い運動を展開していかねばなりません。

農業やJAの強力な 応援団づくりを

平成24年11月に開催した第27回JA北海道大会において、「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」について決議され、時代の変化を踏まえた中で、JAグループの組織・事業機能の充実強化に向けた自らの取組みを進めつつ、一般消費者に対する情報発信を行いながら、農業やJAの強力な応援団づくりを進めていくことが重要であります。

国内外の情勢がめまぐるしく変化している昨今ではありますが、昨年10周年の事業を終えたこのJAきたみ

らいが今一度足元を見つめ直し、組合員の皆様をはじめ各関係機関の方々のご協力をいただいた中で、各種課題を乗り越えていくという強い信念と実行力が求められています。
現在のきたみらい農業やJAの基盤を築いた我々の先人も、その時々時代の背景のもとで、さまざまな困難に立ち向かってきたものと存じます。当然のことながら、「組合員の営農と生活を守り向上させる」という目的を踏まえ、最大限の努力を傾注していかねばなりません。

国家百年の計に立ち 将来に引き継ぐ

さて、先般、日本の「和食」がユネスコ（国際教育科学文化機関）の

世界無形文化遺産に登録されました。我が国の食文化の素晴らしさが世

界的にも認知されたわけですが、そのことは、素材である我が国の農畜産物が評価されたといっても過言ではなく、日本の食料供給基地である北海道の果たす役割も極めて大きなものがあると存じます。

国民の命に直結する農業は、我々の先代が永きにわたり、労苦を惜しまず築き上げてきたものであり、その役割・重要性は将来にわたり、いささかも変わるものではありません。農業は、国家百年の計に立った中で、将来にわたり引き継いでいくべき重要な産業であり文化であります。

このような環境の下、本年から始まります第4次農業振興方策並びに中期経営計画の達成に向け、経営資源と機能の総力を結集し積極的に取り組んでまいります。

結びになりますが、組合員の皆様の益々のご健勝と災害がなく豊穡の秋を迎えられますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。

初笑い



私の

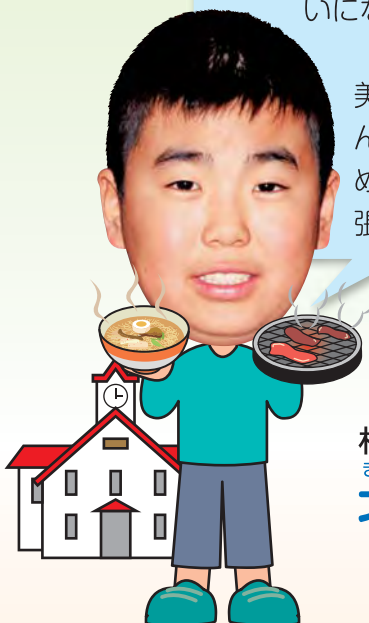
夢と希望

今年の干支(えと) 午年にちなみ、年男・年女の皆さんから“新年の夢と希望”を笑顔で語っていただきました。なお、紙面の関係から各地区2名のご紹介とさせていただきます。

勉強を頑張りたい!

去年は、夏休みに東京に行きました。初めて飛行機に乗れて胸いっぱいになりました。

今年は、札幌に行って美味しい食べ物をたくさん食べたいです。そのためにも勉強をしっかり頑張ります。



相内地区・西相内
きた まち あき ひろ
北町晃洋さん
(2002年生まれ)

健康で、実り多き秋を

今年で3度目の午年を迎えました。2度目の午年に長男を出産し、2人の子どもに恵まれました。

今年1年、家族が健康で、今まで以上に家庭や仕事が充実し、家族で協力して、実りの多い秋を迎えられるよう願っています。



留辺蘂地区・大富
しょう じ あけ み
庄司明美さん
(1978年生まれ)

少年野球で活躍したい

今年は、小学校最後の一年になるので一つ一つの学校行事を楽しみたいと思います。

少年野球でも活躍できるように、練習を頑張りたいです。



温根湯地区・松山
たか はし りょう た
高橋涼太さん
(2002年生まれ)

バトンの全道大会をめざしたい

私の今年の目標は、「かぜをひかない」です。バトンを習っていて、今は全道大会に向けて練習しています。

熱が出たらできなくなるので、かぜをひかないように気を付けて、練習をおもいっきりやって思い出をたくさんつくりたいです。



端野地区・一区
つか もと ち ひろ
塚本千尋さん
(2002年生まれ)

勉強と部活の両立で頑張りたい!

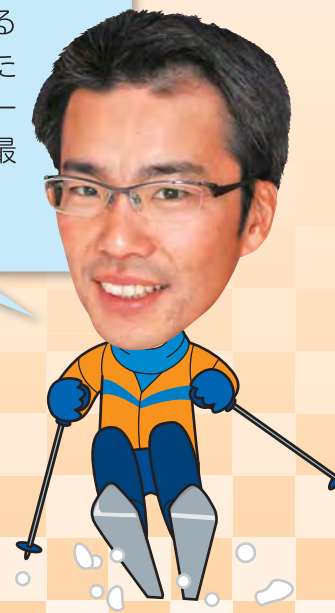
私は来年から中学生になります。中学校は、小学校より勉強も難しくなるし、部活も忙しくなると思っています。でも、勉強と部活を両方頑張る余裕をもって友達と遊ぶようにしたいです。



温根湯地区・大和
しも ぞめ しおり
下込菜さん
(2002年生まれ)

子どもに教えるスキーの楽しさ

皆さん、おめでとうございます。父親として、子どもに教えるため15年ぶりに足を通した“スキー”、昔は競技スキーで鳴らしたものでしたが、最近のスキーは一味変わって、結構楽しく教えています。



上常呂地区・常川
いま た よし とも
今田佳友さん
(1978年生まれ)

朝市会が楽しみ 野菜づくりに励みたい

新年おめでとうございます。今年も農業ならではの生きがいを楽しみたい。朝市会を初めとする野菜づくりに励み、お友だちとのお付き合いを大切に、日々過ごしていきたいです。



北見地区・仁頃
はし もと こ
橋本カツ子さん
(1942年生まれ)

教え子の上達が嬉しい

皆様、明けましておめでとうございます。厳しい農業情勢のなか、営農に励むのはもちろん、時間を効率的に使い、旅行にゴルフ、スキーといろいろなことをやっていきたいです。これからの時期はスキーで、教え子が上達し1級を取ったときの嬉しさは格別、指導者冥利につきますね!



置戸地区・川南
たか や いさお
高谷勲さん
(1954年生まれ)

ゴールを決めたい!

1年生の時から続けているサッカー。今年はずっと試合に勝てるように頑張りたいです。目標は、相手にボールを奪われないよう、1対1では絶対に勝ってゴールを決めたいです。あと、ちょっぴり苦手な国語も頑張ります。



シュート!

訓子府地区・西富
わたなべ れ お
渡辺 蓮太さん
(2002年生まれ)

登山に旅行に

明けましておめでとうございます。5回目の年女となりましたが、やりたいことは尽くせないほどあります。登山が好きで、エベレストでトレッキング（山歩き）もしました。北アルプスにも登りたい。いずれは、マチュピチュへの旅行も叶えます!!



置戸地区・川南
たか や よし こ
高谷 美子さん
(1954年生まれ)

野球と勉強 頑張りたい!

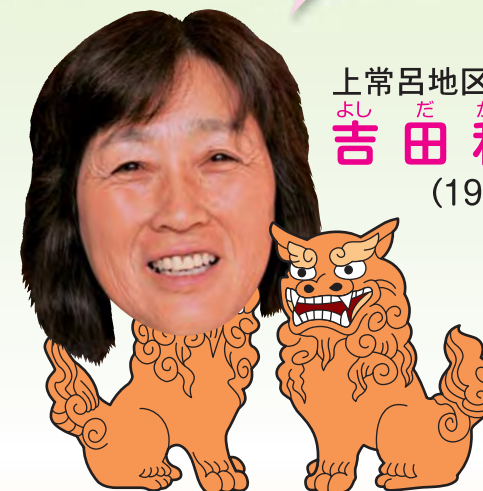
明けましておめでとうございます。ぼくは少年野球をやっています。今年はずっと上手になれるように、練習を頑張りたいです。通知表で二重丸をたくさん取るように、勉強も頑張ります!



北見地区・開成
おく むら た いち
奥村 太一さん
(2002年生まれ)

夫婦で沖縄に 息子よ、よろしくネ♡

明けましておめでとうございます。近年は、お父さんも生産部会の役員とかで忙しかつたので、今年はずっと夫婦でゆっくりと沖縄旅行に行きたいです。その間の農作業は“息子よ”よろしくね。

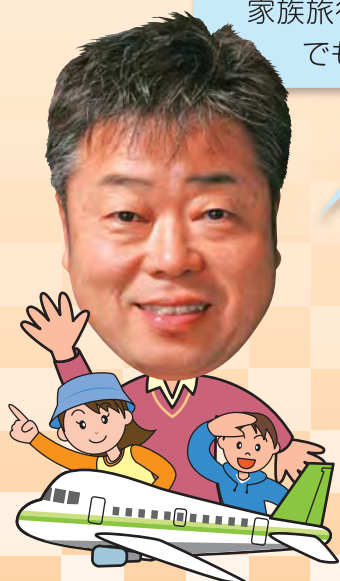


上常呂地区・常川
よし た かす こ
吉田 和子さん
(1954年生まれ)

家族で 沖縄に行きたい

新年明けまして、おめでとうございます。昨年は、異常気象が当たり前になりつつある中で、移植から収穫まで苦労しました。

今年は、家族全員元気で働き、家族旅行を計画しています。沖縄でも行きたいですね…。



相内地区・豊田
や だ め たか ひろ
矢田目 孝裕さん
(1966年生まれ)

地域の皆と 力を合わせて

早いもので酪農家を始めて15年目の春を迎えます。現在TPP、飼料の高騰などで厳しい状況の酪農業ですが、地域の皆と力を合わせて乗り越えて行ければなあと思っています。

最後に、今年も趣味の麻雀! 役満上がれるといいな~ (笑)

やったー
ダブルだ



留辺蘂地区・花園
えん どう なお と
遠藤 尚人さん
(1978年生まれ)

結婚して10年、 徐々に仕事を覚えたい

昨年は育児に忙しく、楽しいことも大変なこともありました。

6歳のお姉ちゃんと4歳のお兄ちゃんが赤ちゃんの面倒を見てくれるのでとても助かっています。

結婚して10年を迎え、徐々に仕事も覚えていきたいですね。



訓子府地区・北栄
もり した
森下 ゆかりさん
(1978年生まれ)

野球で全道大会に 進出したい

ぼくは、少年野球チームのキャプテンをしています。ぼくの今年の夢は、野球の大会で1回は優勝して、全道の大会に出ることです。去年の6年生のレベルを超えられるように、頑張ります。



端野地区・豊実
いがらし あすか
五十嵐 飛鳥さん
(2002年生まれ)

温根湯

免疫力アップの
野菜料理を

～料理講習会に
部会員18人が参加～



▲カラフルシューマイを作る参加者の皆さん

女性部温根湯支部（牧野千代支部長）とフレッシュミズ温根湯支部（山上志和支部長）は12月10日と11日の2日間、温根湯温泉福祉センターで料理講習会を開き、部会員18人が参加しました。

当日は、シユニア野菜ソムリエの佐藤千鶴子さんを講師に招き、「季節の野菜で免疫力アップ」と題し、「白花豆とかぼちゃの春巻き」や「カラフルシューマイ」など計5品に挑戦しました。

今回は、白花豆・南瓜など、地元温根湯でとれる食材や各家庭にある材料で作れるメニュー内容で、参加者は「お家で挑戦してみたい」と話しながら調理に取り組んでいました。

調理後は試食を行い、女性部とフレッシュミズの交流も楽しく深めることができました。

相内

相内小学校で
大収穫祭

～児童98人で
餅つき～



▲楽しそうにつきたての餅を丸める児童たち

北見市立相内小学校では12月4日、体育館で児童98人、PTA役員や父母らの力を借りて「ふるさと大収穫祭」を行いました。

児童たちが春先から行った植付・稲刈り・脱穀・精米までの一連の栽培体験について、1年生から6年生の学年ごとに感想を発表。1年生の感想では「田んぼはぬるぬるして入るのが嫌だったけど、だんだん楽しくなりました」と話し、また「凍った田んぼの中に入るとバリバリと音を立てて、氷が割れるのはおもしろかった」と大きな声で話してくれました。その後、4台の臼を使い児童全員で「餅つき」が出来上がったお餅は、丸められ、形は大小と大きさも様々でしたが、最後の実習体験を楽しんでいました。

同校では来年も児童全員で植付から収穫、餅つきまでの実習体験が行われる予定です。



▲やっつとでたストライクに笑顔でみんなとハイタッチ

ストライクで
ハイタッチ

上常呂

～女性部上常呂・相内
和やかに親睦～

女性部上常呂支部（河野由美子支部長）と相内支部（星加智子支部長）は12月6日、市内ボウリング場で支部間交流を行い上常呂支部16人、相内支部10人の計26人が参加しました。

本事業は支部間の交流を深めることを目的に計画され、同支部間での交流事業は3回目。ボウリングでは互いの交流が深まるよう、両支部混合の6班に分かれ、個人戦での順位を競いました。普段は顔を合わせる機会が少ない部員の皆さんですが、競技では同班の部員の投球を見守り、ストライクやスベアが出ると「やったー」と歓声を上げハイタッチしていました。

終了後は場所を移して懇親会を行い、料理やお酒を介して会話が弾み、互いに親睦を深め、終始、和やかな、少し早い忘年会を楽しみました。

置戸

夫婦揃って
栽培研修

～視察研修に
14人が参加～



▲担当者の説明を聞く参加者の皆さん

置戸種馬鈴薯生産組合（井上雅明組合長）は、12月9日と10日の2日間、視察研修を行い、生産者14人が参加しました。

今年は久しぶりに夫婦揃っての参加を呼びかけました。研修先は、札幌市内にある横浜植物防疫所札幌支所。次席植物防疫官の青木氏より、植物防疫法、検査方法や内容、合格基準、種馬鈴薯病害虫などについて説明していただきました。生産者からは指導対応や防疫体制などについて質疑が行われ、今一度、栽培について認識を深める研修となりました。

その後、高品質な工具を取り揃えた「ファクトリーギア札幌店」へ立ち寄り、こちらでは買えない新しい工具を購入し、研修を終了しました。

端野

小麦をこねて
会員交流

～会員9人が
手打ちうどんに挑戦～



▲寝かせた生地を麺棒で丁寧に伸ばす会員の皆さん

フレッシュユミズ端野支部（間村絵美支部長）は11月28日、端野地区事務所で開催された料理講習会を開催。会員9人が参加し、道産小麦粉を手打ちしたうどん作りに挑戦しました。

同講習会は、会員間の交流を深めながら手打ちで麺作りを楽しむ、小麦の消費拡大を目的に開催。参加者はレシピを見ながら、軽く混ぜ合わせた薄力粉と強力粉に塩水を入れ、こね合わせる作業に励みました。

出来上がった生地を約30分寝かせた後、麺棒で伸ばして包丁で切ると見事なうどんが完成。麺を茹で、お好みのネギやかき揚げなどを盛り付け、試食した会員は「こしがあっておいしい。手作りは最高ですね」と大絶賛。

同支部の間村支部長は「会員で協力し合いながら、うどん作りを楽しみました。それぞれの個性あるうどんを家に持ち帰って、家族みなさんにも味わってほしいですね」と笑顔で話してくれました。

北見

展着剤と
農薬を学習

～上常呂支部と合同で
農薬推進講習会～



▲真剣なまなざしで講師の話をお聴きする部員の皆さん

講習会終了後は来年度に行われる北見・上常呂支部の合併に向け、これまで役員会で協議されてきた役員及び会議体制などの内容について事務局より説明。部員達は真剣に話を聞いていました。

続いて行われた懇親会では、講師を囲んで薬剤に関する意見が交わされ、初の合同実施となった同研修会は有意義に終えることができました。

講習会を終了後は来年度に行われる北見・上常呂支部の合併に向け、これまで役員会で協議されてきた役員及び会議体制などの内容について事務局より説明。部員達は真剣に話を聞いていました。

講習会は講師に（株）花王の神久也寸志氏、ホクレン資材課の大館泰彦氏を招き、展着剤の役割や農薬新剤について説明を受けた後、資材東エリアの職員より農薬の早期予約奨励などについて説明を受けました。



▲森川さん（中央）の指導のもと、料理を盛りつける会員の皆さん

留辺蘂
野菜たっぷりの
料理に挑戦

～一足早い
クリスマス～

フレッシュユミズ留辺蘂支部（坂下あゆみ支部長）は12月18日、留辺蘂町公民館で料理講習会を開きました。

講習会には会員7人が参加。ジュニア野菜ソムリエの資格を持つ森川寿恵さんを講師に迎え、野菜をたっぷり使った「こぼろケーキ」や、「春菊ニヨッキ」、「カブと柿のカブレゼ」の3品に挑戦しました。

料理中には森川さんから、「ごぼうや春菊、カブの栄養や効能について説明がされると、会員からは、驚きの声があがりました。

出来上がった「春菊ニヨッキ」と「カブと柿のカブレゼ」を囲み、参加者の皆さんで食。

また、ふんわり焼き上がった「こぼろケーキ」はきれいにラッピングされ、会場は一足早いクリスマスムードに包まれていました。

訓子府
地元の味覚
満喫して!!

～収穫感謝祭に
200人来場～



▲手作り料理10品のレシピを参考に試食する来場者の皆さん

J Aきたみらい女性部訓子府支部（斉藤晴美支部長）は12月6日、町公民館で「第15回収穫感謝祭」を開きました。会場に訪れた約200人の町民みなさんにお汁粉などの手作りの加工品を振る舞い、地元農産物をPRしました。

斉藤支部長は「天候不順で苦勞の多い1年でしたが、今年も収穫感謝祭を開くことができうれしい」と話し「丹精込めて育てた農産物で、部員が協力し合って加工品を作りました。訓子府の味覚を満喫してください」と呼び掛けました。

野菜の格安販売に加え、自家製乳酸飲料と牛乳を使ったカルピスゼリーなどの3品とパンキンオニオンサラダなど10品の料理コーナーも人気を集めました。来場者全員に新米「米太郎（ななつぼし）」300gと牛乳200mlパックもプレゼント。同町旭町の佐野克子さんは「農家のお母さんたちのパワーに力強さを感じました」と活動に期待を寄せていました。

男女共同参画と女性組織のあり方を学ぶ

外郭三組織合同視察研修

J Aの外郭三組織（青年部・女性部・フレッシュミズ）合同の視察研修を12月9日から12日までの4日間、九州方面にて各組織本部役員9人で実施致しました。その概要をご紹介します。

はじめに訪れた熊本県のJ A菊池では、当J Aでも検討している介護事業を先進的に実施しており、取り組みの経緯や事業内容を説明頂きました。

J A菊池管内は、熊本県内でも高齢化の波が遅い地域ですが、一部の中山間地では高齢化が進み、高齢者福祉活動に対するJ A女性部員からの声が上がリ事業を展開。平成3年



▲ J A菊池 元村知恵子福祉部長(円写真)より説明を受ける



▲ J A福岡中央会 脇山健部長(右)にきたみらいの現状を説明する須河団長(左)

に訪問介護養成研修（ホームヘルパー資格）の実施、平成12年に居宅介護支援事業・訪問介護事業を開始、平成17年に県より指定通所介護事業の指定を受け、「デイサービスセンター」を設立。その後、平成20年頃からショートステイ型施設の要望が上がり、「住宅型有料老人ホーム」と「第2デイサービスセンター」の建設に至りました。その間、J A女性部員や利用者に対する意向調査を行

い、利用希望者が多い実情をJ Aへ訴えてきた結果ですと説明を受けました。

利用割合は、組合員家族が員外より若干多い程度で、優先順位は審査で決定し、J Aを支えて頂いた組合員をはじめ、地域住民に対しJ Aがどう地域貢献するか福祉事業の原点だと話されていました。

翌日は、長崎ハウステンボスでフラワーロードとアートガーデンを見学し、福岡県へ移動。IT技術を導入した胡蝶蘭栽培施設の日高農園を視察しました。胡蝶蘭栽培に必要な温度・湿度・日射時間の3つの積算値を、どこでも施設ごとに確認できるツール「スマートフォン端末管理システム」を富士通と共同開発し、次世代への継承を視野に入れたデータ蓄積を可能とした施設でした。

J A福岡中央会では、主に福岡県内における男女共同参画の取組み事例の説明を受け、J A青年部の理事就任状況と、福岡県内の農村部で女性参画が難しかったJ Aの推進体制、今後女性参画を進める上での課題について話されました。また、女性組織の共通課題に対する意見交換も積極的に行われました。

最終日は、直売施設としては九州最大級のJ A糸島市直売所「伊都菜彩」を見学しました。

視察研修を終えて

共に活動をする機会の少ない外郭三組織（青年部・女性部・フレッシュミズ）でありましたが、この4日間の研修を通じて、組織間交流が図ることができたと考えます。また本研修では、男女共同参画の現状課題と女性組織の将来のあり方について学ぶことができ、次世代を中核的担い手として認識することが必要であるなど、得ることが多かったと感じています。今後も、このような有意義な研修の企画を継続して頂きたいと切に願います。

団長 須河岐文



▲長崎ハウステンボスにて花時計を背景に一枚

フレミズ

「自分・笑い」、「味をツシル」

フレッシュミズ部員研修会

オホーツク女性協議会は12月2日と3日の2日間、網走市「網走湖荘」にて「部員研修会」を行いました。同女性協役員、各フレッシュミズ部員、事務局など149人が参加し、当J Aから8支部合わせては38人が参加しました。

馬淵女性協会長（J Aとこころ）と佐々木部長（J Aこしみず）が挨拶し開会。フレッシュミズの主張では、J Aとこころの遠藤愛さんが「明日輝くために今を楽しんでいますか



▲「笑いヨガ」ではみんな笑顔に

？」と題して実体験を含め発表しました。

続いて株式会社ツールカラーズの能登谷氏を講師に「カラーセラピーで生活に癒しを」と題して講演いただきました。参加者は直感色を選んでいき、自分の内面がわかるパーソナリティ・ストリート・ワークを行い、笑いや驚きが起こっていました。その後の研修「笑いヨガ」では森実啓子氏を講師に、その名前の通り笑いが絶えない楽しい研修となりました。

翌日は、置戸町教育委員会で食のアドバイザーでもある佐々木十美さんを講師に、「ほんものの味をツシル」と題し、学校給食を通じた食育のお話や、子どもたちの味覚を育てる大切さがよくわかる講演でした。みりん・塩・味噌の食べ比べや、コンビ二のおにぎりから出る油など、参加者自らが見て食べて学べる、有意義な2時間となりました。

閉会式では、J A女性の歌を参加者全員で歌い、他J Aのフレッシュミズ部員とたくさん交流ができた2日間が終了しました。

女性部

身も心もリフレッシュ

オホーツクJ A女性協議会

オホーツクJ A女性協議会は12月3日と4日の2日間、網走市「網走湖荘」にて、J A女性部正副部長・事務局合同会議（研修会）を行いました。

同協議会の馬淵会長（J Aとこころ）の挨拶から始まり、組織活動体験発表として「私を育ててくれた女性部活動と仲間達」と題し、J Aつばつの佐野多希子部長が発表。

終了後は、公式井戸端会議を開き、参加者が9班に分かれ、今抱えている



▲班ごとに熱心に話し合う参加者の皆さん

る女性部の悩みや改善策について話し合いました。

二日目は森実啓子氏を講師に、「笑いヨガ」で血行とコミュニケーションの促進をしました。その後、J A北海道厚生連の保健師小田島史栄氏に「筋肉を鍛えて若々しく」と題し、自宅でもできるストレッチを教えてくださいました。

笑いヨガとストレッチで身も心もリフレッシュできる研修となりました。



▲笑いでリフレッシュ!!

青年部

これからの営農の姿を考える

ヨーロッパ農業視察研修

J Aきたみらい青年部はJ Aびほろ青年部と共に11月14日～22日の9日間の行程でヨーロッパ農業視察研修(ドイツ・フランス)を実施し、部員22人(きたみらい17人、びほろ5人)が参加しました。紙面の都合上、視察先を抜粋して紹介致します。

ドイツ

アグリテクニカ (国際農業技術展)

アグリテクニカは世界最大級の展示会であり、農業団体ドイツ農業協会が企画運営を行っています。展示会場は24のホールで構成され



▲刈り取り部分が12.5mある大型のコンバイン



▲現地スタッフより説明をうける青年部員

ており、ホールごとにメーカーや作業分類により区分けされ、展示されていました。

2年に一度開催され、展示面積が約38畝あり、会場内をバスで移動するほどの広大な展示会場となっており、世界各国から約3,000社の出展があり最先端技術や新製品を展示、例年約40万人の来場者が集まります。

青年部員は最新のトラクターや作業機械を見学し、これからの営農の姿やビジョンを考える機会を得て、とても有意義な研修になりました。

ジョンディア工場

マンハイムにあるジョンディア工場では、日本国内ではなかなか見ることの出来ない大規模な工場、トラックターの製造、組み立てを見る事が出来ました。

ジョンディア社は世界19カ国、65ヶ所に工場があり、このマンハイム工場はアメリカに次ぎ2番目に大きい工場です。マンハイム工場は敷地が約42畝、その内工場が22畝あり、約4,000人の従業員が働き、1日約200台のトラクターが作られています。計算すると3分30秒で1台のトラクターが完成していることになるそうです。ドイツのトラクタ



▲展示されているコンバイン前に集合

の約40%がジョンディア製のことです。

ライファイゼン街道

(ライファイゼン生家、元村長舎)

ライファイゼンは協同組合の父と呼ばれ、世界に様々な存在する協同組合、信用組合の仕組みを作り上げた人物で、ドイツの3都市の元市長です。

今回の研修ではライファイゼン生家、元村長舎を訪れ、ライファイゼンがどのような生活をしてきたのか、ライファイゼンの生い立ちや日本の農業協同組合のルーツを知ることができ、農協組合員のあり方を今一度確認することができ、大変貴重な研修となりました。



▲元村長舎にて現市長より説明をうける(写真中央が現市長)

フランス

ジュノーアグリカルチャー (35歳以下の農業組合)

ジュノーアグリカルチャーではフランス、ヨーロッパにおける農業の現状、組織について研修を行いました。フランスは農業人口が減少し、高齢化が進んできています。新規参入率が少なく、耕作放棄地も多くなってきたりするなど日本と抱えて



▲フランスの農業情勢について研修

いる問題が似ているようです。新規参入者や、農業生産性が悪い山岳地帯には助成金や資金貸付時の利子助成もあり、国の政策についても日本と似ている部分がありました。今後のフランス農業の展望は国の政策に左右され、農業人口を増やさなくてはならず、そのためには地域の一般の方々の理解と協力が不可欠だと話していました。

パリ近郊の農家、パリ市内市場見学

パリ近郊の野菜を生産しているモリス農場を視察。畑とハウスを含め約17畝の土地を所有(現地の野菜農家の平均的な面積)。アスパラ、人

参、セロリ、玉葱など約50種類の野菜を生産しています。

この農場は有機栽培の許可はおりていないが、消費者の要望が強く、肥料、農薬は使用せず、販売方法は市場、直売所、AMAP(アマップ)である。AMAPとは、生産者と周辺に住む消費者が契約を結ぶ提携システムで成り立ち消費者は生産者に数ヶ月分の代金を前払いし、週に1度収穫物を取りに行くことで生産者は資金繰りに困ることなく生産することができます。

青年部員から「害虫対策はどうしている」、「直売、AMAPの価格はどうか等の質問が出され、活発なものとりました。

メーシアアップを担う部員を発掘する「純農Bov北海道オーティション」が初めて開かれました。

翌日は野口観光グループ 代表取締役社長 野口秀夫を講師に招き、「ホテル経営からみた農業経営」と題して記念講演が開かれました。

本大会の大会宣言では日本の食を支え続ける使命感と目的意識を持ち、食農教育などを通じて農業への国民理解を広げることや、将来を見据えた経営感覚を磨くことなどで「新たな食と農の価値を創造する」と決意が示されました。他にも教員らを農場に招いた「農村ホームステイ」の

青年部

全道大会で青年の主張発表

林尚哉部員 優秀賞を受賞



▲青年の主張を発表する林尚哉部員

全道J A青年部大会が12月5日と6日、札幌市内で開催され当青年部から部員24人が参加しました。

初日は「J A青年の主張」と「J A青年部活動実績発表」、「分科会」等が行われ、J A青年の主張では「食と農の架け橋 揺るがさないもの」と題して相内支部 林尚哉部員が発表を行い優秀賞を受賞しました。全体の懇親会時には、青年部のイ

パリ市内にあるマルシェ(市場)を見学、野菜などの農産物の他、鮮魚や精肉、花、食料品、ワインなど様々な種類の露店が広がっていました。



▲果物、野菜などが陳列されているマルシェ

報告や、道青協の活動報告などが行われ、閉会しました。



▲優秀賞を受賞!!

INFORMATION

「瑞穂の国」を目指して

「TPP市民セミナー」で 滋賀大学・柴山氏語る

北見市やJAきたみらい、北見市消費者協会など12団体で構成するTPP市民セミナー実行委員会は11月21日、北見芸術文化ホールで「TPP市民セミナー」を開き、約350人の市民が参加しました。

主催者挨拶で櫻田真人北見市長は「TPP交渉は秘密保持協定の下、我々国民に十分な説明のないまま着々と交渉が進められています。国の形が変わるといわれているTPPについて、私たちの生活や暮らしがどうなっていくのかという不安を持っている方も多いと思います」と話し、また「1次産業を主体とするオホーツク地域経済に壊滅的な打撃を与えるばかりか、医療や食の安全・安心、公共事業、金融、保険な



▲主催者挨拶を行う 櫻田市長

ど私たちの暮らしに深刻な影響を及ぼすことが強く懸念されています。本日は市民の皆さまと共に考え、理解を深めるために市民セミナーを企画しました」と述べました。

セミナーでは「行き過ぎたグローバル化が国民生活を危うくする」と題し、滋賀大学の柴山桂太准教授が90分の講演をしました。

柴山准教授は、「TPP交渉のゆくえに懸念を持っている。日本のメリットよりもデメリットの方が遥かに大きいと考えられる。既に日本は平均関税率では世界的に見て低い方で、一部米などが高く目に付くが、それでも農産物平均20%程度であり、自由貿易の優等生となっている」と話し、また「製造業輸出増加が期待されているが現地化・産業の空洞化が進み、当然、食料自給率は大幅に低下し、試算では14%まで低下することが予測されている。アメリカは国内事情により年内の交渉妥結を急いでいるが、日本はそれに付き合う必要はない。安易な妥協をせず『瑞穂の国』を守ると約束した現政権において都市と地方、富裕層と非富裕層、製造業と農業のそれぞれが調和した格差の少ない経済社会を目指すべきだ」と力説し、参加した市民は熱心に耳を傾けていました。



▲TPP交渉のゆくえについて力説する 滋賀大学の柴山准教授



TPPの影響力を学ぶ

「部員学習会」に60人参加

JAきたみらい青年部（荒喜文部長）は12月19日、当JAのセンター事務所「部員学習会」を開き、部員60人が参加しました。

開会にあたり、荒部長は、TPP交渉参加12カ国が12月10日、目標としていた交渉の年内妥結を断念して閉幕したことに触れ、「米国は日本に対して、自由化を求める強硬姿勢は崩していない。日本政府は農畜産物重要品目の国会決議を踏まえ、毅然とした対応が求められている」と強調し、「我われ青年部も交渉内容の把握と、地域農業に与える影響などを学ぼう」と学習会の趣旨を話しました。

来賓挨拶に立った当JAの大坪広則常務は、「北海道農業が崩壊するTPP交渉から即時撤回する運動を共に強化しよう」と呼び掛けました。学習会では、当JAの高橋優常務が「TPPが及ぼすきたみらい地域農業への影響」を真剣に聞く部員の皆さん。



▶写真は 講師を務めた高橋常務。



▲TPPが地域農業に与える影響などを真剣に聞く部員の皆さん。

豆類を日常の料理に活かす きたみらい豆類振興会

きたみらい豆類振興会（茂住修二会長）は12月12日、JAセンター事務所の調理室で「男の豆料理教室」を開き、同振興会役員5人が調理に参加しました。この取り組みは、消費拡大に結びつけることを目的に2008年から毎年行われ、今年で6回目となります。今回作った料理は、「小豆で作るジビエスープ」、「白豆とポークのビール煮込み」、「白豆のエビマヨ」の3品。昨年に引き続き講師に迎えた野菜ソムリエ・穀物アドバイザーの辻本宜子さんは、白豆や小豆を、もっと日常の料理に活かしたいという思いから、今回のレシピを考案しました。参加者は講師の指導を受け、分量や味を念入りに確認しながら約1時間30分で3品が完成しました。振興会会長の茂住さんは出来上がった料理を試食し、「どの料理にも豆のまろやかな味が生きていて美味しくできた」と大満足。1月9日には、STVテレビで放送中のどさんこワイド「ときめき野菜通信」において、留辺薬の白豆が特集されます。今回作った料理も紹介されるので、皆さん是非ご覧下さい。



▲楽しく調理を行う役員の方たち

然的に現れてくることも説明し、「年金暮らしのお年寄りやお金のない人は病院にも行けない」と指摘しました。

最後に「今やるべきこと」と「今できること」の中で、JAきたみらいの役割として「きたみらい農産物を選んでもらえる販売パートナーの確保」、「農業資材の安価提供」、「組合員のために効率的なJA運営」の3点を挙げました。また、「平均値以上の収量、品質を確保できる農畜産物を生産し、自分たちの子どもの将来のために財産を残そう」と話した後、「明るく恵みの農業に向かつて、共に頑張っていこう」と訴え、講演を結びました。置戸支部の岡田章さんは「私たちが地域で営む農業への影響力を具体的に聞けた。身近な消費者にTPP参加で潤うのは、一部の大企業であることを伝えて行くことが大切」と決意を話しました。

INFORMATION

第11回 理事会報告

12月20日、午前9時30分より第11回定例理事会が開催され、報告事項16件、議決事項7件が協議され、原案通り承認されました。

- 【報告事項】**
- ①内部監査<無通告(貯金・共済)>報告について
 - ②組合員状況報告について
 - ③財務状況報告について
 - ④合併10周年記念事業収支決算について
 - ⑤全国監査機構期中監査報告について
 - ⑥訴訟案件について
 - ⑦対策農家の収支見込みと精算対応(予定)について
 - ⑧平成25年度産麦精算実績及び24年、25年度産の精算について
 - ⑨平成25年度産もち米精算実績及び24年、25年度産の精算について
 - ⑩平成25年度産米乾燥料金について
 - ⑪平成25年度産てん菜生産実績について
 - ⑫生乳生産状況及び個体取引価格について
 - ⑬平成25年度産共計玉ねぎ・馬鈴しょの選果販売状況について
 - ⑭地域合同地区運営委員会の主要意見について
 - ⑮平成25年度産青果物未使用スチールコンテナの実態と対応について
 - ⑯平成24年度産でん原馬鈴しょの精算について
- 【議決事項】**
- ①出資減口及び持分譲渡について
 - ②諸規定の改廃について
 - ③平成26年度冬期地区別懇談会の日程(案)について
 - ④第11回通常総代会の日程(案)について
 - ⑤当組合との利益相反取引に係る取扱いについて
 - ⑥平成26年度事業計画基本方針(案)について
 - ⑦北海道報徳(善行賞)受賞候補者の推薦について

年末年始の営業日程

| 月日 | 曜日 | センター 地区事務所 | 金融窓口 | ATM | 給油所 |
|--------|----|---------------|------|-----|--------------------|
| 12月28日 | 土 | 休業 | 休業 | 営業 | 営業 |
| 29日 | 日 | 休業 | 休業 | 休業 | 営業 (訓子府・上常呂は休業) |
| 30日 | 月 | 休業 | 営業 | 営業 | 営業 |
| 31日 | 火 | 休業 | 休業 | 休業 | 午前中営業 |
| 1月1日 | 水 | 休業 | 休業 | 休業 | 休業 |
| 2日 | 木 | 休業 | 休業 | 休業 | 休業 |
| 3日 | 金 | 休業 | 休業 | 休業 | 休業 |
| 4日 | 土 | 休業 | 休業 | 営業 | 営業 (9:00~15:00) |
| 5日 | 日 | 休業 | 休業 | 休業 | 営業 (訓子府・上常呂は休業) |
| 6日 | 月 | 午前中営業 | 営業 | 営業 | 営業 |

12月号クイズの当選者

12月号のまちがいがしへの答えは「1, 2, 8, 9, 11」でした。正解者45名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。尚、抽選はJAきたみらいの佐藤常務にお願いしました。

()内は地区名

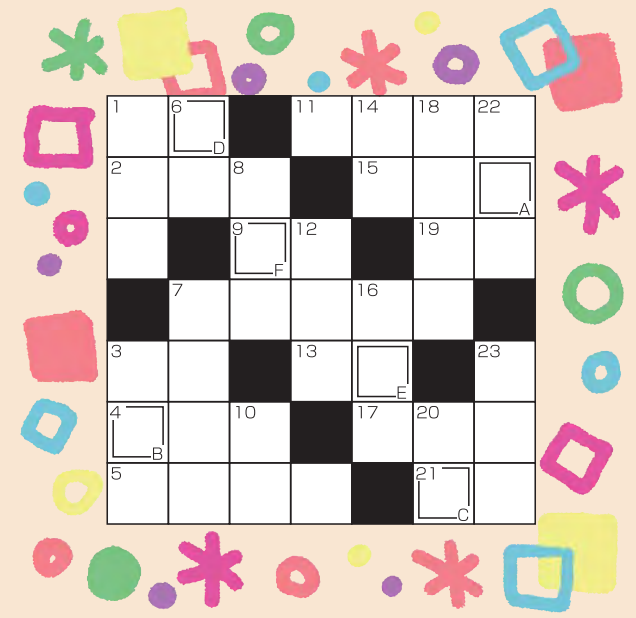
- ・稲田 静枝さん(温根湯)
- ・橘 来輝さん(留辺蘂)
- ・大橋 延幸さん(相内)
- ・石村 直美さん(置戸)
- ・須藤 幸子さん(置戸)
- ・佐藤 玲子さん(訓子府)
- ・袴田 茉由さん(上常呂)
- ・吉田優妃奈さん(北見)
- ・雨池 定子さん(北見)
- ・館野 清志さん(端野)

以上の方々には、ふじや菓子舗(温根湯)の白花豆お菓子詰め合わせをプレゼントします。

応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で20名の方に、羽前屋(北見)のお菓子詰め合わせをプレゼントします。

クロスワードパズル



二重マスの文字をA~Fの順に並べてできる言葉は何でしょうか?

- ① タテのカギ**
- ① 花火に詰められているもの
 - ② よく天使と対比されます
 - ③ 矢をつがえるもの
 - ④ 自動車の心臓に当たる部分
 - ⑤ 位置について、——、ドン!
 - ⑥ セーターや口紅をきらきら光らせます
 - ⑦ 正月に飾る——餅
 - ⑧ パナナが実るのは木ではなく、葉と茎から成る——なのです
 - ⑨ スピードを上げること
 - ⑩ その年度に20歳になる人を祝う——式
 - ⑪ あなたが粹の中に書き込んでいるもの
 - ⑫ たんずにしまいます
 - ⑬ 果実がのどの炎症に効くというバラ科の植物
- ④ ヨコのカギ**
- ① 1月7日に七草をいれて炊きます
 - ② 月が出ていなくて真っ暗
 - ③ 餅にくるんで食べることもあります
 - ④ ナガス、ザトウ、ゴンドウといえば
 - ⑤ 顔全体、——の笑みを浮かべる
 - ⑥ 中でポップコーンとパンフレットを買おうかな
 - ⑦ さなぎから成虫になること
 - ⑧ 水、金、地、火、木、土、天、海
 - ⑨ 大豆を発酵させて作る調味料
 - ⑩ 紙幣や硬貨を入れます
 - ⑪ 晴れても雨でも雪でもなく
 - ⑫ こまはこれを中心に回る
 - ⑬ 1614年に起きた大坂冬の——



▲閉会式後、健闘を称え合うきたみらいチーム

第21回全道農民交流剣道大会 山内幹司七段、個人の部で優勝!! きたみらいAチーム、団体3位に

ホクレン旗争奪「第21回全道農民交流剣道大会」が11月17日、虻田郡壮瞥町にて開かれました。主催は、JAとうや湖(持ち回りで開催)。JAグループ北海道5連他が後援。

例年、11月開催の同大会に全道10市町52選手(きたみらいからは2チーム9選手)が参加しました。JAとうや湖の石川組合長より大会挨拶、佐藤壮瞥町長とホクレン佐藤会長から祝辞を頂き、選手宣誓後、熱戦が繰り広げられました。

団体の部では、16チームが参加し、きたみらいAチーム(山内幹司・嶺将太・永原寛崇)が3位に。個人戦では、59歳以下の部で、きたみらい同士の決勝戦となり、山内幹司七段が優勝、木村則夫錬士六段が準優勝に輝きました。

五段以上の部以来、9年振りの優勝に輝いた山内幹司さんは、「なかなか時間がとれず準備不足でしたが、すばらしい成績を上げることができました」と喜びを語りました。

前日の交流会には、なじみの強豪相手との再会を喜び合い、地元の特産品を披露しました。来年は旭川近郊での開催の予定となっています。

訂正とお詫び

先月号(131号)のおひさまサラダで、次のとおり誤りがありましたので訂正のうえ深くお詫び申し上げます。

特集4ページ目 見出し6行目
歌謡書ショー ⇒ 歌謡ショー

特集4ページ目 本文4段目9行目
代表監事、常勤理事 ⇒ 代表監事、常勤監事、非常勤理事

12 月に入って、しめ縄作りに行ってきました。少しいびつな形だけど、出来上がった時は嬉しかった。神様喜んでくれるかなあ〜。今年は豊作であります様に。パンパン。

(置戸地区・鈴木 小梅さん)

手作りした分、喜びもひとしおだったと思います。どんど焼きの際、名残惜しくなってしまいましたが、煙を浴びて無病息災で過ごしましょう!

131 じゃ菓子舗の白花豆のお菓子詰め合わせがたべたーい。

(端野地区・富樫 裕可さん)

これからも、当選して嬉しくなるようなものをプレゼントしてきますので、またチャレンジしてください。

毎 月楽しみにしています。でも、間違い探しはちょっとやさしすぎかな?

(相内地区・辻本 礼子さん)

ご愛読ありがとうございます! 間違いさがしはなかなか難しいときもありますので、またチャレンジしてくださいね。

毎 月とても楽しみにしています。12月号の小林さんのケーキとてもなつかしく昔の手作り結婚式、人と人のつながりが出ていて今にかけていることとおもいます。

(訓子府地区・山田 京子さん)

今も昔も、地域の皆さんで協力してなにか成し遂げたときは、一つの大きな繋がりが生まれますね。これからも、互いに支え助け合っていきましょう!

VOICE 読者の声

発行 きたみらい農業協同組合

〒090-0813

北海道北見市巾ノ島町1丁目1番8号

TEL0157-32-8777 (4ヶ)

責任者/西川孝範

編集者/営農振興部:企画振興グループ

編集後記

明けましておめでとうございます。本年もご愛読のほどよろしくお願いいたします。正月と言えば、おせち。家系代々～最近は、特選グルメ商戦と過熱状態です。皆さんのご家庭はいかがでしたか？

さて、先月、「和食」が世界文化遺産に登録されました。しかし、皮肉にも“米”1人あたりの年間消費量は、この50年で半減、和食離れは止まらない。

「食料自給率の向上」、さらに日本人が身近に感じにくい「食料安全保障の重要性」、そして「農業、食への感謝の伝承」と、食の見直しのきっかけにつながればと願っています。
(本多勝彦)